「地質標本館」満3年を迎えて

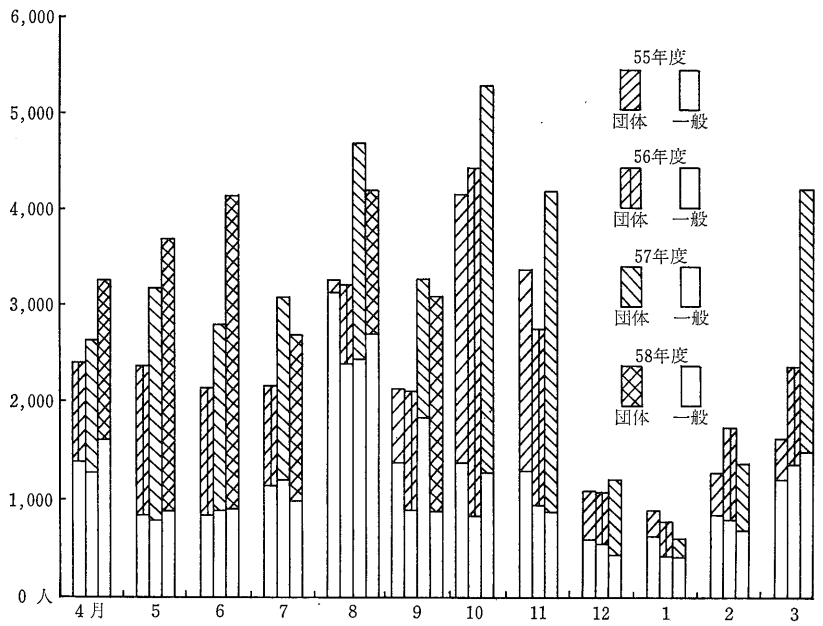
白髭弘次（地質標本館長付）
Hirozi SHIRAHIGE

昭和55年8月　一般公開された地質標本館は今年で開館満3年を迎えた．　この間　入館者は増加する傾向にあり　かつ見学者は近県ばかりでなく　広範囲な地域に及んでいる．　「地質調査所の研究活動の紹介と地球科学の成果を普及する」と言う　地質標本館設置の目的と使命は十二分に果たされて　その存在価値は益々高揚してきている．　また　本年6月8日には皇太子殿下・同妃殿下・浩宮殿下がご視察されている．　開館1年の経過については　既に本地質ニュース(1982年1月号No. 329)で紹介したのでその後の入館状況　経過　近況などについて記録をまとめてみた．

年間の入館者　過去3年間の入館者（表1）を見ると年々増加の傾向が顕著に表われている．　開館以降延日数（昭和58年9月末まで）742日　入館者総数102,748名　1日当たり平均入館者138名である．　56年度は345団体　27,499名　57年度は479団体　36,495名の入館状況で　ここ1年で134団体8,996名の増加を記録している．　58年度は更に漸増傾向にある．　月別では8月の夏休み期間　10月の旅行シーズンが一つのピークとなって表われている．　一方12月から2月の冬期間の低い傾向は前回の報告と変らない．

地域別の入館者　筑波研究学園都市を含めて茨城県内の入館者（表2）が56%と圧倒的に多く　地質標本館は周辺地域の社会教育施設として密着性を高めている証拠と言える．　最近の特色として新潟県　秋田県などの一部であるが　中・高等学校の修学旅行の見学コースとなって筑波山と研究学園都市の見学を組んで訪づれてい

第1表　年間月別入館者数



第2表　地域別入館者（単位人）

年月日＼地域	茨城県内		茨城県以外の関東地域		関東地域以外の遠隔地	外国	合計
	筑波学園都市内	学園外の県内	東京都内	都を除く近県			
開館以降 昭和56年8月迄	9,304	8,437	5,740	4,214	1,812	499	30,006
9	633	554	561	212	116	28	2,104
10	498	1,546	777	1,299	219	87	4,426
11	430	1,092	621	263	283	61	2,750
12	252	310	374	51	58	21	1,066
昭和57年1月	177	206	258	69	34	21	765
2	219	878	347	147	89	61	1,741
3	439	704	765	193	190	76	2,367
4	992	926	383	161	149	22	2,633
5	893	1,617	361	156	100	49	3,176
6	428	742	726	479	345	74	2,794
7	485	1,072	717	422	320	54	3,070
8	961	2,184	605	677	212	49	4,688
9	427	1,904	381	143	297	112	3,264
10	302	1,676	1,474	1,477	267	88	5,284
11	614	1,206	1,095	665	508	97	4,185
12	142	414	276	181	164	54	1,231
昭和58年1月	112	178	135	40	44	85	594
2	224	510	294	131	160	43	1,362
3	503	1,598	861	777	406	69	4,214
4	869	1,074	614	213	424	67	3,261
5	260	1,736	615	231	743	98	3,683
6	333	1,461	909	656	706	68	4,133
7	439	1,329	413	315	116	67	2,679
8	857	1,997	414	570	254	102	4,194
9	267	1,185	1,086	330	154	56	3,078
計	21,060	36,536	20,802	14,072	8,170	2,108	102,748

る．　関東地域以外の入館者は　北は北海道　南は九州・沖縄と道府県の全域から全体の8％を占め　その地域は広範囲に分類される．　また　外国からは全体の2％を占め　57年度は796名の入館者があり国際的にも貢献している．　昭和60年の科技博開催時には　周辺地域に宿泊施設が充実されると　特に遠隔地からの見学者がこの年は数倍に上がるものと予想される．

職業別の入館者　開館1年当時は会社員　公務員が上位を占めていたが　最近順位（表3）が入替って自営業　家庭の主婦　老人などが多くなってきた．　文化社会教育　レクリエーションの一端としてPTA研修会　県政教室　家庭学級　婦人会　老人クラブなどが主催する団体で見学し　家庭人を対象とした勉強会を実施する傾向が高まってきている．　特に目立つ団体では教育研究会　各省庁研修会　民間企業社員の見学会　産業界　その他各種連合会等の視察などである．　小・中学校の団体も現地教育の施設として固定化されてきている．

報道　地質標本館に関連してここ2年間に報道された件数は　電波報道6件（表4）　新聞報道31件（表5）雑誌報道7件（表6）に達する．　この数字は確認されたもので　この他に地方紙などで報道されて未確認のものも相当あると思われる．　開館当時に比べて少なくなっているが　地質標本館の記事が出つくしたものと想像

される.

最近　各方面から地質標本館のPRが足りないとの貴重な意見が出されている.　当所では立場上直接に宣伝することはできないのでマスコミ界による報道が一番効率的と思われる.　現在まで新聞テレビ　ラジオ　などで取り上げられた総件数は94件である.　報道された各機関に対して紙上をかりて厚く感謝したい.　今後とも地質標本館の紹介に協力していただきたいと願っている.

新しい展示物　昭和56年度から実施の公害特別研究「湖沼堆積物の調査技術に関する研究」によって新たに解明した　「霞ケ浦の歴史」　を第3展示室（生活と鉱物資源）に設けた.　湖沼環境を正しく理解するにはその地史を知ることが重要である.　霞ケ浦の湖底の地質　汚染状況などの紹介によって日本における湖沼の環境問題に対する当所の立場及び研究方法を示して地域社会の発展に貢献している.　その他オーストラリアの褐炭などを新たに展示した.　また　各展示品に英文表示ラベル受付案内板などの標識を追加して見学者が利用しやすいようにしている.

小・中学生の地質標本に関する相談会　初めての試みとして8月30日　研究学園都市周辺の小・中学生を対象に　夏休み中に採取した「鉱物」「岩石」「化石」の鑑定や分類など　自由研究のお手伝いを目的で地質標本課を中心に数名の研究員の応援を得て相談会を開催した.

夏休みになると毎年この種の問い合わせが多く　地域の子供達とコミュニケーションを図るため今までにもいろいろな企画が立案

第3表　職業別入館者（単位人）

職業 / 年月日	地方公務員 国家	会社員	高校生 大学生	小学生 中学生	自営・家庭・その他	計
開館以降 昭和56年8月迄	7,058	9,014	2,989	5,795	5,150	30,006
9	407	356	135	426	780	2,104
10	556	652	113	1,511	1,594	4,426
11	646	518	122	202	1,262	2,750
12	264	279	97	44	382	1,066
昭和57年1月	141	246	56	40	282	765
2	460	222	85	406	568	1,741
3	485	450	210	554	668	2,367
4	459	338	779	546	511	2,633
5	441	329	1,008	976	422	3,176
6	548	457	115	433	1,241	2,794
7	549	434	256	200	1,631	3,070
8	886	341	298	983	2,180	4,688
9	619	273	73	39	2,260	3,264
10	752	590	206	1,227	2,509	5,284
11	1,053	597	406	375	1,754	4,185
12	385	118	38	171	519	1,231
昭和58年1月	179	178	13	7	217	594
2	451	223	50	40	598	1,362
3	900	589	319	1,064	1,342	4,214
4	680	587	795	455	744	3,261
5	553	460	804	1,143	723	3,683
6	911	638	497	782	1,305	4,133
7	721	322	207	295	1,134	2,679
8	1,311	358	391	852	1,282	4,194
9	652	648	122	636	1,020	3,078
計	22,067	19,217	10,184	19,202	32,078	102,748

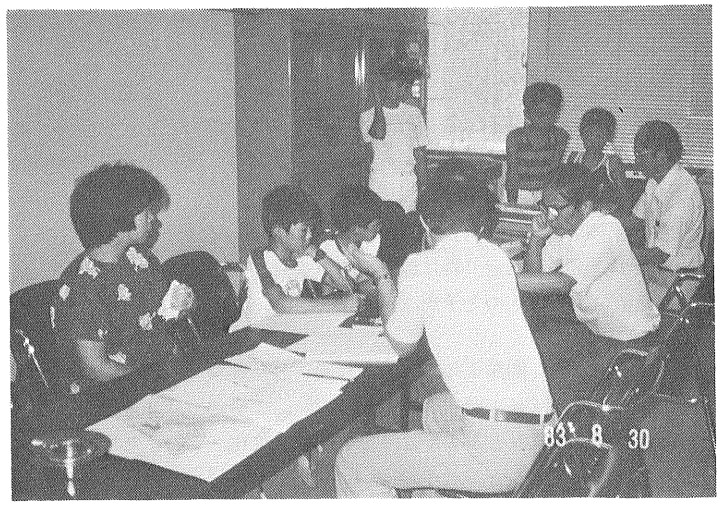


写真1　小・中学生を対象に実施した地質標本に関する相談会

第4表　地質標本館の電波放送内訳（昭和56年9月～昭和58年9月）

放送年月日	時間	局名	番組名	内容
56. 9.18	06：00	熊本テレビ	ワイド6「ニュース」	筑波研究学園都市紹介の内公開施設
56.10.17	07：15	NHKラジオ	博物館だより	地質標本館入館状況
57.11.12	08：00	NHK教育テレビ	教養セミナー科学と人間	探訪「頭脳都市つくば」地質標本館紹介
58. 3.22	8：10	テレビ朝日	おはようテレビ朝日	地質標本館の紹介
58. 8.25	13：30	茨城放送ラジオ	タイム4「いばらぎ」	小・中学生の地質に関する相談会
58. 8.31	13：30	茨城放送ラジオ	タイム4「いばらぎ」	地質標本館の紹介

第5表　地質標本館の新聞掲載記事（昭和56年9月～昭和58年9月）

新聞紙名	年月日	キャプション
▲毎日新聞	56. 9. 8	筑波学園都市「新名所」へ観光業者が照準
いはらき	56.10. 8	学園都市の地質標本館　竹内知事が見学
毎日新聞	56.10.23	―ミニ行楽地―しばしロマンの世界へ筑波学園都市の「地質標本館」
山陰中央新報	56.10.23	地球の「姿」つぶさに筑波の「地質標本館」研究成果わかりやすく
エリート情報	57. 1.29	サイエンスれぽーと……いま筑波で地球科学の生きた学習ができます
▲常陽新聞	57. 3.27	BIE議長が現地に「計画性ある都市づくり」
▲常陽新聞	57. 4.14	科学技術週間きょうの催し
いはらき	57. 4.17	霞ヶ浦湖底の歴史　堆積物を分析，展示　汚染浄化に貴重な資料
新いばらき	57. 7. 8	頭脳都市つくば　地球科学立体的に学ぶ　霞ヶ浦の歴史も解説
エリート情報	57 .8.13	女子大生が案内する学園都市パート2　地質標本館は理科の勉強にいいみたい
朝日新聞	57. 9. 3	地質標本館人気急上昇
▲読売新聞	57. 9.10	資源開発の歴史ひと目で　地質調査所が百年史
▲朝日新聞	57. 9.23	地質調査所を一般公開
▲朝日新聞	57.10. 4	地質調査所が100年に，いまや首脳の視察コース学園都市
サイエンスニュース	57.10.	科学と人間探訪・頭脳都市つくば　科学をささえるデータバンク
▲読売新聞	57.12. 4	お国でPRよろしく　外人記者団筑波を見学
サンケイカラー百科	57.12. 9	化石のはなし　地質標本館
▲常陽新聞	58. 6. 9	皇太子さまご一行　精力的な視察第2日
▲サンケイ新聞	58. 6. 9	皇太子ご夫妻と浩宮さま　前日に続き各施設をご視察
▲読売新聞	58. 6. 9	皇太子さまご一行科学都市をフルコース
▲いはらき	58. 6. 9	皇太子ご夫妻帰京　地震予知，努力を　筑波学園都市
ザ・ワールドタイムス	58. 8. 5	未知の地球を調べる　地質標本館を訪ねて
読売新聞	58. 8.25	学園都市30日に工業技術院で　石の相談　受けます
朝日新聞	58. 8.25	小・中学生の採集鉱石無料鑑定いたします　筑波の通産省地質調査所
常陽新聞	58 .8.31	持ち込み岩石分析　中には南極産も　工業技術院地質標本館
▲読売新聞	58. 9. 1	地震と科学　防災の日特集号
読売新聞	58. 9. 4	10万人目に記念品　学園都市
朝日新聞	58. 9. 4	地質標本館入館10万人目
常陽新聞	58. 9. 4	開設3年で入館10万人　地質標本館
いはらき	58. 9. 4	おめでとう10万人突破　学園の地質標本館入館
サイエンスコミュニケーション	58. 9.16	地質調査所　チビッ子の夏休みお手伝い

（注）▲印は記事中に関連事項として地質標本館が取り上げられているもの

されたがなかなか実現されなかった．　今回は1週間前に立案して開催したため　小・中学校への連絡は取れなく　主に新聞報道　ラジオ放送　公民館などへのポスター掲示で案内をした．　催しは1日だけであったが朝から小・中学生をはじめ遠くは水戸市から岩石を持参して21組　延40名が訪づれて盛況となった．　ルーペ文献などを使い標本名　組成　年代など詳しく説明した．

なかには親が海外旅行で採取したのかカナダ　南極の石まで持込んで熱心な質問が研究者に向けられた．　小・中学生の時から地質に興味を持っている子供達が多く研

第6表　地質標本館の紹介雑誌等（昭和56年9月～昭和58年9月）

誌　　名	巻・号	キャプション	発行所	発行年月
地図ニュース	109	工業技術院　地質標本館の訪問記	(財)日本地図センター	56. 10
日本の博物館		宇宙と地球	講談社	57. 5
フォートいばらき	1,982別冊	県民と共に（表紙写真）	茨城県庁	57. 8
新建築	11	工業技術院　筑波研究センター　地質調査所	(株)新建築社	57. 11
日本博物館協会報告書	1,983	博物館の展示技術に関する調査報告	(社)日本博物館協会	58. 3
公共建築	24	社会教育のための施設	(社)営繕協会	58. 3
ビーパル	23	ストーンハンテング必須科目　博物館めぐり	小学館	58. 5

究者を喜ばせた．　参加者からアンケートを取った結果　参加者の50％の子供が新聞報道で催物を知ったと回答した．　今回好評を得たので　次回は早めに企画して近県の関係機関などを通して小・中学生に知らせ　地域の社会教育に密着した行事として定着していきたいと思っている．

地質標本館入館10万人目達成　8月19日　開館満3年になったばかりの地質標本館で　9月3日午前10時20分　入館10万人目を記録した．　この日　職場の旅行で研究学園都市を訪づれた日立製作所日立工場の社員グループ110人の1人で　茨城県東海村の熊谷正紀氏が10万人目の幸運者に該当した．　沢地質標本館長から500万分の1地質図　霞ケ浦用水トンネル内で産出した珍しい斜灰簾石のループタイなどの記念品を贈呈した．　今回は10万人目の前後に当たる同僚の二人にも地質標本館の絵はがきを贈りお祝した．　三人は思いがけないプレゼントに「研究学園都市が身近かになりとても親近感がわいた」と大喜びであった．　ちなみに3万人目は昭和56年9月4日入館の山口県牛島小学校教員　瀬光　明氏　5万人目は昭和57年5月18日入館の茨城県勝田高校生神和恵さんが幸運者となり　心ばかりの記念品を入館日に贈呈されている．

地質標本館の運営　開館当初から「地質標本館運営要領」に従って運営されてきたが　開館後　満3年有余を経過し　展示テーマのマンネリズム化　展示設備の永年使用による故障の多発　冷房設備の運転供給する前後の数期間は照明等の強い光線によって館内温度の上昇に伴う冷房施設の改善などを含めて　展示のあり方について各部室の委員で構成された「地質標本館展示棟運営委員会」が中心となって　現在見直しを行いつつあり　より良い地質標本館にしていきたいと努力している．

昭和58年10月1日から開館時間を9時30分（従来は10時）に変更して利用の皆様の便宜を図っている．　今後とも多くの方々に社会教育　生涯教育施設として利用して頂きたいと念願している．

写真2
地質標本館入館10万人目達成者に記念品贈呈